

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および7月9日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は2002年に回復期リハビリテーション病棟48床を開設され、2006年には病院全床（95床）を回復期リハビリテーション病棟化された。病院の理念および基本方針のもと、患者の個別性を重視し質・量ともに充実したリハビリテーション医療の提供、そして地域へ繋ぐ医療が実践されている。先端的なリハビリテーション技術を取り入れ、積極的にリハビリテーションにも取り組まれ、退院後の訪問リハビリテーションおよび通所リハビリテーションも行っている。急性期病院との連携や退院後の生活支援など、幅広いリハビリテーションニーズに応じられるよう、組織強化を図られている。今後、益々の貴院の発展を祈念したい。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病院の理念と基本方針の視点を踏まえた回復期リハビリテーション病棟の理念と基本方針が明文化され、職員や利用者に対して適切に周知されている。365日充実したリハビリテーション・ケアを提供するための各専門職が配置されている。病棟の業務改善や対応・運営ルールなどは「業務推進委員会」で議論し「病院運営会議」で方針が決定され、決定事項の職員への周知は適切である。

安全確保に対しては、医療安全管理委員会が中心に活動し、転倒、誤認、行動制限、検査時の配慮等、高頻度の事象に関する安全確保体制の手順が整備され、組織的に取り組んでいる。急変時対応に関しては、職員全員がBLS研修を受講し、多職種参加型のシミュレーションも実施されている。療養環境については、感染制御、車椅子などの点検、防犯体制、トイレ・浴室の安全性への配慮がなされている。

電子カルテが運用され、職種毎に適切な評価、データの収集・分析が行われ、病院として活用されている。教育・研修は、病院としての年次計画が立案され、適切に実施されている。急性期病院との連携は、地域連携パスが積極的に活用されている。在宅復帰後のリハビリテーション・ケア継続へ向けて、訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションが開設されており、また、地域の連携機関との情報提供も行っている。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

常勤医 5 名（リハビリテーション科専門医 1 名、認定医 2 名）と非常勤リハビリテーション科専門医 1 名が、回復期リハビリテーション病棟入院患者の診療にあっている。医師はチームの統括や指導、患者・家族への説明や指導の役割をおおむね適切に果たしている。なお、リハビリテーション総合実施計画書についても原則として医師から説明されることが望まれる。看護師・介護福祉士の業務手順が整備されており、看護・ケア場面で種々の実行性のある情報共有ツールを活用しながら、退院後の生活を想定した個別性のある看護・ケアを行っている。回復期リハビリテーション認定看護師などの育成も実施されている。

各療法士は、標準的な評価に基づいて策定した目標達成のためプログラム策定やその見直しを、進捗に応じて適切に行っている。療法の質向上や人材育成の支援が総合的に行われている。社会福祉士はリハビリテーション・ケアの進捗と患者・家族の生活状況や希望を踏まえた支援を適切に行っている。管理栄養士はカンファレンスへの参加、ミールラウンドなどを積極的に行い、個別的で効率的な栄養管理を適切に行っている。認定資格取得や院外の研究発表などの積極的な取り組みは高く評価できる。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院日に標準化された評価が多職種により実施され、入院時カンファレンスを実施しリハビリテーション実施計画が作成され、患者・家族に説明され、患者の意向を踏まえた支援が行われている。1 日 7 単位以上の疾患別リハビリテーションが実施され、ロボット機器などを活用し、機能回復のための療法が積極的に実施されている。個別リハビリテーション以外にも患者の活動性を高めるレクリエーションが多職種で協力して行われており、余暇時間の活動性向上のための支援が適切に行われている。2 週毎のミニカンファレンス、月 1 回の定期カンファレンスを多職種で行い、リハビリテーション実施計画が見直されている。なお、目標や実施内容の見直しに医師の関与があればさらに良い。そのほか必要に応じて、転倒等の安全の問題が生じたケースについて安全カンファレンスを行い、必要な対策が検討されている。病棟での朝のミーティングは、担当する医師、看護師、療法士などの全てが参加されるとなご良い。社会福祉士、管理栄養士、薬剤師も患者の個々の問題に対して、チームと協働しながら専門性を発揮している。

退院支援や家屋調査が行われ、退院時に見込まれる心身機能、ADL、IADLを踏まえた療養指導、環境整備、介護サービスなどが適切に提案されている。退院後の訪問リハビリテーションによるフォローアップを行い、自宅復帰後の生活指導などが行われ、また、失語症カフェなどを行い、言語障害者の社会参加が適切に支援されている。退院後の調査などに引き続き取り組まれ、病棟業務のさらなるブラッシュアップに繋げることを期待したい。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営 評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	II
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	II
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	II
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	I
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	II
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	II
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	II
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	II
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	I
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	II
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	II
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	II

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	Ⅲ
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅲ
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	I
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	I
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	I

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	II
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	II
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	II
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	II
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	II
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	II
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	II
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	II